

# 碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可  
 神奈川 碩心会 発行

元 年 2 月 号 (1999号)  
 発 行 者 岳 萃  
 編 集 者 岳 愛  
 中 村

現 在 会 員 数 名  
 173  
 2 月 地 区 名 名  
 279  
 月 地 区 名 名  
 51  
 現 在 会 員 数 名  
 (503)

## 詩吟との出逢い

下 山 口 綱 川 晃 岳

私は四十七年三月、偶然に森谷はん、高梨薫(元会員)に詩吟の誘いを受け、下山口教場にお世話になりました。先輩達からも大歓迎を受け、又加藤岳相先生、沼田洗岳先生の迫力ある吟声が館内に響き渡るのを聞き、詩吟のすばらしさにひかれ、決意を新たにしました。先生の熱心な御指導と、先輩達のなごやかな雰囲気の中、はや何年かが過ぎました。

私は犬の散歩でよく海岸へ行きます。青い海、そして霊峰富士を正面に、左右に伊豆の山々を一望しながら長者ヶ崎先端を廻りますが、私の随一の練習する場所でもあります。教えられた詩が浮かび、何回かくり返す程、詩の良さと味合いが出てきます。詩吟は字の如く、精神を集中させ、詩の感動と、吟ずる感動：感動のない詩吟はあり得ない。自分自身が心に思ひ発見が大切である。工夫し、創作し、把握し、鋭さ、強さ、深さと。更に嬉しさを、悲しさを、美しさを、きびしさを、よろしさを如何に表現して吟ずるか、詩吟は絵の如しとは論外である。凝結した韻文である。ここでもう一度

作者の詩文を分析しながら、声の出し方、小節の使い方などを、あらためて痛感する次第です。

振り返ってみますと十数年：色々な行事に参加させていただき、深い思い出の中で特に、碩心会五十周年記念大会での松井岳洋先生の筆の捌きには、真に魂が込められており、貴重なひとときに感無量、よい思い出となりました。

今後共、心のふれ合いはもとより、吟道を楽しみながら吟技、向上に一步前進を期したいと考えておりますので、皆様の暖かい御指導と御協力を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。

## 第95回 全国吟道大会

と き 平成元年三月十九日(日)

と ころ 明治神宮記念館

神奈川県本部合吟参加は左記の通り

合 吟：神 州 (横一・横二地区男子)

〃 〃 神 州 (湘南・京浜地区男子)

〃 〃 常盤孤を (横一・横二)

〃 〃 抱くの図 (湘南・京浜地区女子)

碩心会から(20名)が右合吟に参加します。

合吟コンクール (堀内・Fより十名一組)

常盤孤を抱くの図

第96回全国大会参加

県本部吟行会のお知らせ

日 時・平成元年10月7日(土)～10日(祭)  
費・九万九千円

申込切・2月25日 加藤伍相先生方へ  
主なコース(一列車・二バス・一船)

第一日 新横浜―米原―敦賀―三方五湖(遊覧船) 加賀―那谷寺―山中温泉

第二日 (全国大会参加) 湯涌温泉

第三日 江戸村―上越―直江津―小木港―相川

第四日 佐渡島内―尖閣湾―さいの河原―両津―新潟港―新潟―上野

神奈川県本部傘下各会々員との親睦と和を目的に、全国大会を兼ね、名所古蹟を尋ね、参加会員全体の懇親会等、楽しい吟行会です。どなたでも参加できますので多数御参加下さい。

碩心会 皆伝会開催のお知らせ

とき・3月5日(日)11時より

ところ・堀内会館 逗子駅より海岸廻り  
一色行バス元町下車

会費・二千元

◇来る2月26日皆伝受審合格者も参加

碩心会 春季審査会

とき・3月26日(日) 9時30分受付

ところ・逗子図書館ホール

◇許証料は4月10日迄に納入のこと

◎ 県本部費値上げ決定

(月額百円を二百円に)

昨年末の県理事会にて右件が提案され、各会毎に検討問題となっておりましたが1月29日初理事会に於て右決定いたしました。高年齢・身障：百円 義務教育終了前：二十円

許証部の仕事

許証部長 中村 幸岳

○前年十二月一日、春季審査会の会場(逗子図書館ホール)申込依頼。

○資格者調査して名簿作成。

○二月一日社会教育会館申込。

○資格調査会の準備から開催の取運び。

○受審者決定後、審査関係書類作成。

○審査員並びに指導者に連絡。

○審査会当日は運営、連絡を担当。

○審査料、許証料の取りまとめ、経費事務一切を行う。

○合格者決定後、許証申請書を作成、本部に送付、許証料送金。

○許証受領後温習会で授与  
以上で春季審査関係終了。秋季審査会も前記と同様に行う。

その間、県本部よりの通達による皆伝以上の審査に關しても、資格者調査資格審議委員会開催受審者決定すると名簿を県本部へ送付合格者の許証料取りまとめ送金許証受領後授与までの処理を担当。

◎ 特にご理解とご協力を頂きたいこと

一、会場の確保

逗子図書館ホール並びに社会教育会館を利用しておりますが、他に適当な場所がない為、会場確保が最大、先決の問題です。これまで広瀬翔岳先生には長年に亘り、大変お骨折りを頂きました。この欄をお借りして改めて御礼申し上げる次第です。今後逗子存住の方にお世話になりますのでよろしくお願いたします。

二、審査料・許証料の納入

受審者が多数いられる支部は大変だろうと思っていると、一番早くまとめて届きます。そうかと思つと受審者二、三名なのに仲々届かない支部もあります。全支部が完納しないと取りまとめ処理が出来ません。毎回のことで、催促のない様、なるべく早く、指定期日迄に納入下さるよう、御協力お願いします。

練吟 螢雪

○一、ほたるのひかり、まどのゆき。

ふみよむつきひ、かさねつつ。

いつしかとしも、すぎのとを、

あけてぞけさは、わかれゆく。

二、とまるもゆくも、かぎりとして、

かたみにおもう、ちよろずの、

こころのはしを、ひとことに、

さきくとばかり、うとうなり。

○この唱歌の題は、始め「螢」であったがあとで「螢の光」になった。第四節までであるが作詞者は不詳。スコットランド民謡が原曲であるので、船の出港時には各国ともこの曲が流れるし、とくに日本では、小、中、高校などの卒業生は、この歌で送られるのでなんとも懐しい曲である。ここでこの歌詞をとり上げたのは、先日この曲を耳にした際、歌詞に意味不明の点があった（ということ、これまで歌詞を知らないでいたということになる）ので、少々調べて見たいと思ったからである。

○とにかく、小学生にはむづかしい歌詞に相違ない。第一節の「ふみよむつきひ、かさねつつ」は、（書読む、月日）であることが分ったのはよかった。なにしろ、関東なまり

で「つきひ」を「つきし」と発音するからよけいけくない。「すぎの戸」の「すぎ」は（過ぎと杉をかけた）ものであることはご存知のとおり。第二節の、「かたみに」は（形見に）とする意見もあるが（互に）という古語である。「心の端を人毎に」と歌っている人があるが、これは（一言に）が正しい。「さきくとばかり」の「さきく」は（幸く）とした方が分りやすいが「お元気で」と解するのが本当。万葉集時代の古い言葉である。（「日本の唱歌」講談社・金田一春彦・安西愛子編）

○螢雪の語源は漢文（漢詩ではない）からで、晋の頃の「日記故事」という古い本にある。和訳すると「孫康は家貧しくして油なし。かつて雪は映じて書を読む。後、官吏となって大臣に出世した。車胤は幼にして勤勉、貧しくして常には油を得ず。憂には練り絹の中に数十の螢を包み、書を照らして読む。後、官吏となって次官に進んだ」官僚出世主義は一六〇〇年前の中国もすでにそうであった。でも、こんなことを、今の子供達に説明してみたところで始まらない。いっそ現代的な歌詞に変えたらと思われる。ちなみに、「われは海の子」や「村の鍛冶屋」は、内容が時代にそぐわない理由で、すでに小学唱歌から外されている。

平成元年

初指導者講習会のひとこま

一月三十日月曜日の夜、松井岳洋先生をお迎えして、恒例の傾心会指導者講習会が行われました。その日は奇しくも、松井先生満八十五才の誕生日でもありました。相変らず豊饒とした松井先生にさゝやかなケーキをプレゼント、お祝いいました。

さて講習がはじまろうとした時、突然小峯桜岳先生が「嶽始めの歌」を御指導願いたいと申し出されました。突然の申し出で御迷惑では：と私は内心思ったのですが、先生は気持よくお引受け下さり、明々と吟じはじめられました。長い詩ですので、私はひたすら配られたプリントを追いかけながらの合吟でした。その合間私はふと松井先生をみやると、先生は目を閉じて堂々と吟じられています。私はおそれいって、それから時々先生の方に目をやりました。最後まで吟じつづけられました。

次に松井先生みずからお書き下さった「春江花月の夜」のプリントをいただき、朗詠に入りました。先のこともあったので私は又ふと見るとあの長い詩を又々最後まで暗記朗詠されているのです。前々から「文天祥の正気の歌」など長詩を暗記朗詠なさ

ることを知ってはおりましたが、あらためてただただ敬服の一語につきました。

それといただいたブリントの松井先生の筆蹟の何と素晴らしいことか、私達にとって大事な大事な宝物です。

最後に加藤岳相先生の閉会の言葉の中に「八十五才の御高齡にもかかわらず」との言葉が出たところ、隣席の松井先生がすかさず、例のあのにこやかな温顔で「まだ高齡ではありませんよ」と笑いながらひと言いわれ、それが又何ともいえない微笑ましい雰囲気で、全員が思わず大きな大きな拍手をしてしまうというひと幕もありました。根岸会長の「今年もがんばろう」の言葉に応え、松井先生を見習って誰しもが「がんばらなくっちゃ！」とあらためて心に誓ったことと思います。 愛岳

## 六代御前の墓伝説地

(逗子市指定史跡)

古いツキケヤキと大きなタブノキの茂みの下にある六代御前の墓碑は、水戸の藩士齋田三左衛門尉平典盛が建てたもので、現在氏子の方々が毎年七月二十六日に供養をしております。下桜山の地元にある歴史の一端にふれて皆さんでご参詣下されば幸

いです。

田越川のほとりは刑場であったことから御最後川とも呼ばれ、六代御前はこのほとりで、今から八百年近い昔、正治元年(一九九年)に処刑されたと伝えられています。

平家一門が壇の浦の戦で滅びたとき、十二才ほどだった六代は平維盛の嫡男で、平家の正統のあとつぎだったため、幕府に捕えられてしまいました。その頃、高雄山神護寺の法師で文覚という人が、源頼朝とは伊豆に流されていた頃からの親しい間柄でしたので、幼い六代を哀れに思い、自分の弟子にするという条件で助命を嘆願してくれました。嘆願がかなえられた六代は名を妙覚と改め、仏道に入って静かに暮らしていました。その後十数年経ち、頼朝が亡くなると幕府から、平家の子孫六代は「さる人の子なり、さる人の弟子なり、たとひかしらば剃り給ふとも、心をばよも剃り給はば」というわけで、謀反の容認を受けて捕えられ、駿河の国の住人岡部権守泰綱の手にかかって、あたら二十六才の若い命は断たれました。今も変らず流れつづける田越川のほとりには哀れな物語りがいろいろ伝わっています。

(六代御前の系図)

正盛―忠盛―清盛―重盛―維盛―六代  
(正盛から数えて六代目にあたるので「六代」と言われ、本名は解らないそうです)

逗子市教育委員会編

「ふるさと逗子」より

○傾心会指導者講習会は今まで桜山下会館で行われてきましたが、都合上二月から六代御前社務所をお借りすることになりました。境内にある六代御前の墓の由来を知りお詣りするのも意義あることと思います。

(入会)

525 蛭子トヨミ 葉山町一色八六八一〇

(一色A) (電)〇四六八一七五―六四二八

526 塚越照子 逗子市池子二―二二三

(真澄) (電)〇四六八一七三―七九四四

(退会)

457 浅野雅明(逗子A)

初音 (はつね)

我が家の近くにもマンションが建ちましたが、庭の木々にはまだ時折鳥がやっています。その年はじめて聞く鶯の声を初音という。鶯は別名春告鳥ともい、梅と共に春の便りを告げてくれます。鶯のさえずりは早春の喜び、麗らかな春の陽さしの待たれる今日このごろです。